

～市民の力で“宮古まち”に賑わいを season4・5～

平成30年地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅡ】採択課題

課題名：中心市街地活性化に向けた持続可能な市民連携活動に関する実践研究

研究代表者：盛岡短期大学部 准教授 内田信平

課題提案者：宮古市企画部 復興推進課

研究メンバー：岩間健（宮古市企画部復興推進課）

技術キーワード：中心市街地活性化、市民参画、公共施設、まち育て、連携、地域資源

▼研究の概要（背景・目標）

宮古市では、中心市街地拠点施設と市庁舎跡地の整備に際し、これまで3カ年実施した地域協働研究により、「中心市街地活性化」と「市民参画」をキーワードとして基本的議論や実践を試みるなかで、市民が当事者となりまちづくりに関わる＝「まちを育てる」という意識が芽生えてきた。

本研究では、これまでの市民による活動の蓄積を生かしながら、その拡大と安定的な継続を目指し、「さらなる連携の拡大」と「エリア全体での地域資源の活用」を目的とする。

▼研究の内容（方法・経過）

■平成30年度の活動

これまでの3年間の活動をベースに、連携を広げ「まちづくり市民会議season4」を組織。同会議メンバーによる市民ワークショップを計5回実施した。平成30年度は、同年10月に供用開始となる中心市街地拠点施設「イーストピアみやこ」の活用を視野に入れて活動した。

11月に、ワークショップで育んだアイデアを実現する場として「みやこわくわくストリート2018」を開催した。



「まちづくり市民会議season4」
第2回市民ワークショップの様子



「みやこ・わくわくストリート
2018」開催の様子

■令和元年度の活動

前年度に引き続き「まちづくり市民会議season5」を組織。市民ワークショップを計6回実施した。令和元年度は、歩車共存道路として整備計画が進められている末広町通りを主な取り組みの場とした。

10月に、宮古市都市計画課による社会実験（交通規制）期間内に合わせて、ワークショップで育んだアイデアを実現する場として「みやこわくわくストリート2019」を開催した。



「まちづくり市民会議season5」
第4回市民ワークショップの様子



「みやこ・わくわくストリート
2019」開催の様子（末広町通り）

▼研究の成果（結論・考察）

1. 平成30年度は、10月に供用開始された中心市街地拠点施設「イーストピアみやこ」を市民による活動の場として活用することができ、同施設が新たな賑わいの核となりうる可能性が示唆された。
2. 令和元年度は、宮古市都市計画課による社会実験（交通規制）期間内にイベントを開催した。新たに生み出された歩行者スペースの活用の可能性を確かめるための試みを実施することにより、今後の整備へ活かすための情報を得ることができた。
3. 商店街の事業者等と共通認識を持つことの困難さなど、改善が必要と感じられる部分もあった。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 今年で、東日本大震災の発生から9年となった。これまでの5期にわたる活動を通し、参加メンバーの中から、徐々に、地域のリーダーとなりうる人材が育ってきていると考える。今後は、県立大学や市が企画の中心になるのではなく、このようなリーダー的立場の市民が中心となって、活動を継続していくべきと考える。県立大学としてはバックアップする側にまわり、このような活動の安定的な継続に寄与していきたいと思う。
2. 「まちづくり市民会議season4・5」メンバーの皆様および関係者の皆様に、感謝申し上げます。